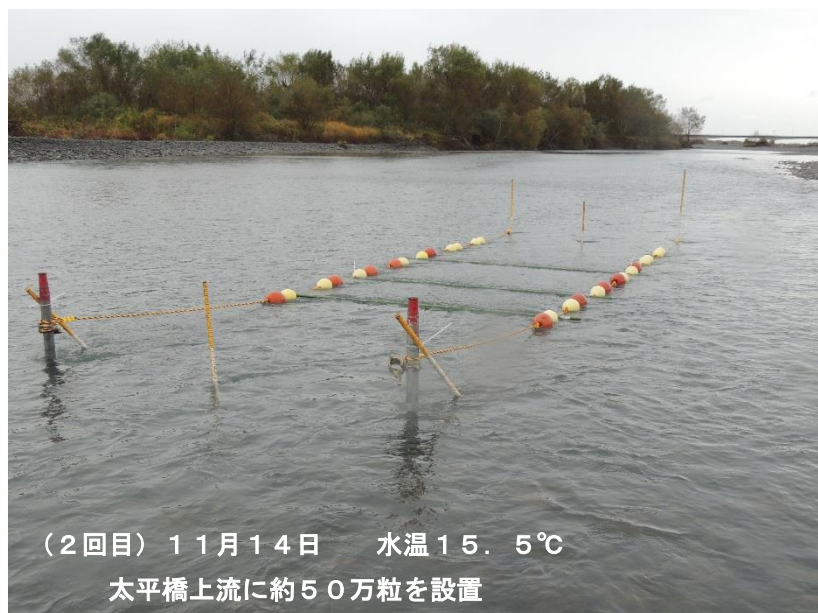
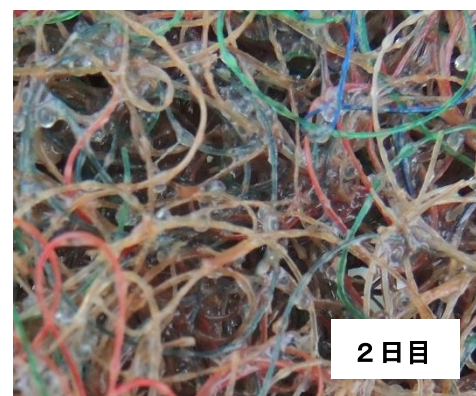
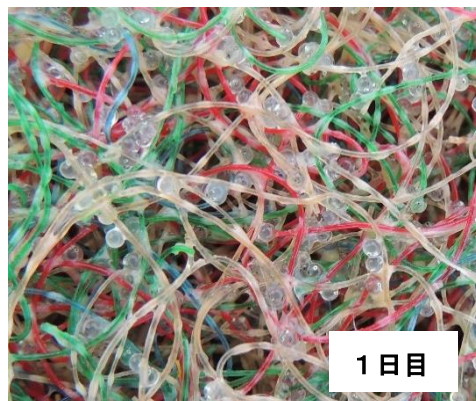


鮎発眼卵 300 万粒を放流しました



あゆ発眼卵(孵化)の経過



11月初旬、水温や瀬替えの影響を見計らいながら、大井川下流部にあゆ発眼卵 300 万粒を放流しました。期間中、雨による増水もありましたが、二週間を孵化の目安として卵が付着したマットを水中に設置しました。

設置直後はたくさんの発眼卵が確認できましたが、撤去時には卵はほぼ孵化し、ゴミが付着するのみでした。

本年度の本流における鮎漁は濁水等の悪影響もあって深刻な不漁でしたが、12月2日、大井川(中鵜網地先)で鮎のハミ跡が確認されました。

来シーズン、産卵などの再生産に繋がるものと思われ、朗報としてご案内します。



←ハミ跡が見られた中鵜網
↓体長22~25cmの鮎のハミ跡

